

令和 7 年度
全国学力・学習状況調査
結果報告書

令和 7 年 9 月 1 日(月)

智辯学園奈良カレッジ小学部

6年生が本年度4月に受験した全国学力・学習状況調査の結果についての報告です。今回の調査は、国語・算数に加え理科の3教科と児童質問紙の4種類の調査でした。本校では、児童の基礎学力を確認するのに良い機会と考え、毎年調査に参加しています。また、児童質問紙で児童各人の生活の様子がわかるのも本調査のメリットです。

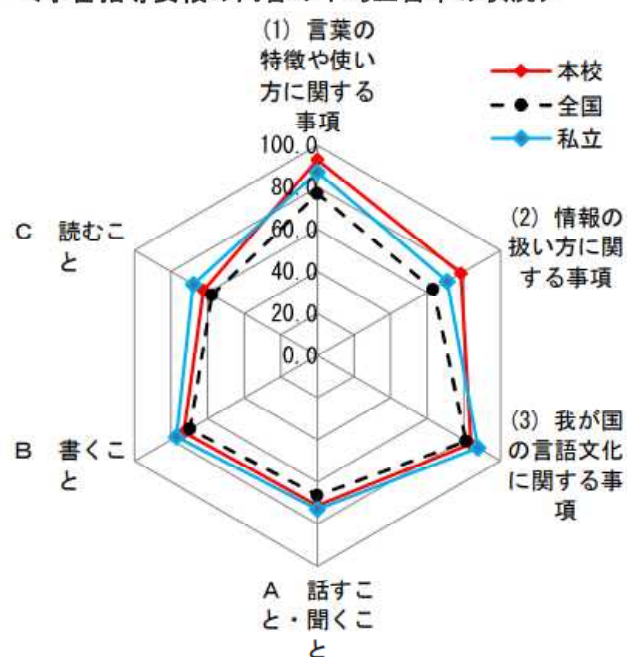
以下が本校6年生の結果です。

【国語】

対象児童数	智辯学園奈良カレッジ小学部	私立	全国
	37	6,592	948,862

分類		区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
				本校	私立	全国
全体			14	74	75.4	67.0
学習指導 要領の 内容	知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	2	93.2	87.4	77.0
		(2) 情報の扱い方に関する事項	1	78.4	70.9	63.2
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	83.8	87.7	81.3
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	71.2	73.0	66.4
		B 書くこと	3	73.0	77.2	69.7
		C 読むこと	4	62.2	67.9	57.7
評価の観点		知識・技能	4	87.2	83.3	74.6
		思考・判断・表現	10	68.1	72.2	63.9
		主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式		選択式	9	68.8	72.7	64.9
		短答式	3	91.0	88.4	78.6
		記述式	2	68.9	68.3	59.0

＜学習指導要領の内容の平均正答率の状況＞



本校児童は全国平均をかなり上回っているものの私立小学校の平均をやや下回るという結果であった。ただし、本校6年生の国語の基礎学力は概ね身についているといえる。評価の観点の「知識・技能」については、87.2%で全国および私立の平均を上回る結果であった。ただし、「(3)我が国の言語文化に関する事項」は今後課題を残した。

一方「思考・判断・表現」については、全国平均こそ上回ったものの私立平均に水をあけられた。「A 話すこと・聞くこと」「B 書くこと」「C 読むこと」はいずれも全国平均は上回っているものの私立平均を下回っている。

しっかり考えて、主体的に判断し、他者にわかるように言葉で伝えるという練習を重ねることが必要である。

また、問題形式についても「短答式」「記述式」に比べ「選択式」で正解率が低く、刹那的・直感的に選択肢を選ぶのではなく、選択肢をしっかりと丁寧に読んで、主体的に考えるという習慣付けが必要である。

児童質問紙で「国語の勉強は得意ですか」という質問には「当てはまる」45.9%、「どちらかといえば当てはまる」24.3%、「国語の勉強は好きですか」という質問に「当てはまる」56.8%、「どちらかといえば当てはまる」16.2%、「国語の授業の内容はよく分かりますか」という質問に「当てはまる」45.9%、「どちらかといえば当てはまる」48.9%と国語に対しては良い印象を持っている児童が多いことが分かる。

ここからは、今年の6年生児童が国語を楽しく達成感を持って授業に臨んでいるということが窺える。テストで点数を取るための勉強ではなく、国語を学ぶ楽しさや面白さを感じながら学習してくれているということは我々教員にとってとても嬉しいことである。

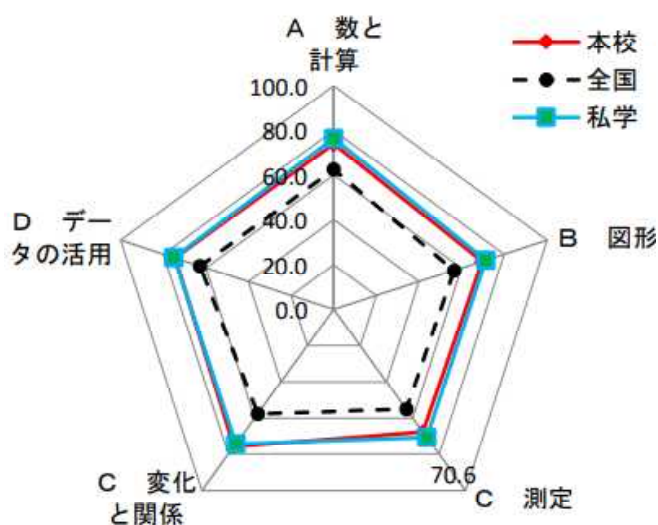
これからも児童のやる気を大切にしながら課題解消に向けて国語教育を推進する所存である。

【算数】

対象児童数	智辯学園奈良カレッジ小学部	私立	全国
	37	6,594	949,125

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			本校	私立	全国
全体		16	70	72.3	58.2
学習指導要領の領域	A 数と計算	8	74.0	76.5	62.5
	B 図形	4	69.6	71.3	56.4
	C 測定	2	67.6	70.6	55.0
	C 変化と関係	3	75.7	74.2	57.7
	D データの活用	5	74.6	75.0	62.8
評価の観点	知識・技能	9	77.2	78.6	65.7
	思考・判断・表現	7	61.4	64.1	48.5
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	6	83.8	80.9	67.4
	短答式	6	73.0	77.0	64.2
	記述式	4	45.9	52.1	35.2

＜学習指導要領の内容の平均正答率の状況＞



本校児童は全国平均を大きく上回っているものの私立小学校の平均をやや下回るという結果であった。ただし、本校6年生の正答率はすべての領域で全国平均を上回っており、算数の基礎学力がしっかり養われていることは確認できた。

ただ、今回の結果で、正解率の高い児童と低い児童が正答数11問を中心にはっきりと2つに分かれていたことは懸念される点である。正答率の低かった児童を今後いかに伸ばしていくかが、本校の課題である。

最近では、算数の問題であってもしっかりと文章を読み、内容をよく理解した上で問題を解かねばならないという出題形式が増えた。よって、単に算数の力だけを伸ばしても正解にたどり着けないということも起こり得るのである。加えて、解答を文章などで記述するという傾向の問題も増えてきており「表

現力」をつけることも課題である。

児童質問紙で「算数の勉強は得意ですか」という質問に「当てはまる」40.5%、「どちらかといえば当てはまる」37.8%、「算数の勉強は好きですか」という質問に「当てはまる」40.5%、「どちらかといえば当てはまる」29.7%、「算数の授業の内容はよく分かりますか」に「当てはまる」37.8%、「ど

ちらかといえは当てはまる」が48.6%と回答している。算数についても本校6年生は好印象を持って学習に取り組んでいることが分かる。

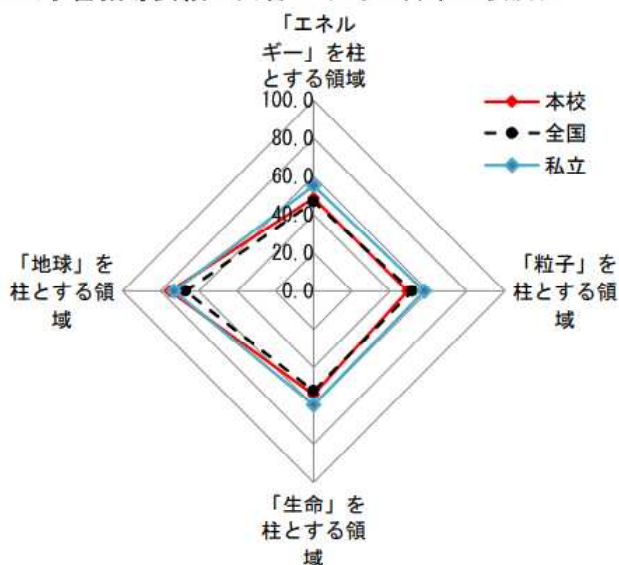
本校児童は、算数の基礎学力は十分に身につけているが、今後は、基礎学力のさらなる充実と応用力を高めるため、より主体的に算数の学習に取り組む必要がある。皆で一緒に考える楽しさや論理的整合性の美しさを味わえるような児童に成長してくれることを期待して、これからも各個人のペースに寄り添いながら丁寧に教科指導を続けていく所存である。

【理科】

対象児童数	智辯学園奈良カレッジ小学部	全国（私立）	全国（国公立）
	37	6,596	949,308

分類		区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
				本校	私立	全国
全体			17	61	64.1	57.3
学習指導 要領の区 分・領域	A 区分	「エネルギー」を柱とする領域	4	48.6	55.1	46.8
		「粒子」を柱とする領域	6	49.1	57.8	51.5
	B 区分	「生命」を柱とする領域	4	54.1	59.5	52.2
		「地球」を柱とする領域	6	75.2	73.2	66.9
評価の観点		知識・技能	8	58.8	64.3	55.5
		思考・判断・表現	9	62.5	64.0	58.9
		主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式		選択式	11	56.5	63.3	54.9
		短答式	4	74.3	74.6	69.8
		記述式	2	56.8	47.7	45.3

＜学習指導要領の内容の平均正答率の状況＞



本校児童は全国平均を上回っているものの私立小学校の平均を下回っているという結果であった。

「学習指導要領の区別・領域」では「A区分」の「『粒子』を柱とする領域」が全国平均を下回り、今後の対応が急務である。

「問題形式」の「記述式」が56.8%と私立の47.7%や全国の45.3%より大幅に高いのが特徴的である。論理をしっかりと言語化できていると言える。

児童質問紙で「理科の勉強は得意ですか」という質問に「当てはまる」35.1%、「どちらかといえば当てはまる」37.8%、「理科の勉強は好きですか」という質問に「当てはまる」43.2%、「どちらかといえば当てはまる」35.1%、「理科の授業の内容はよく分かりますか」に「当てはまる」が48.6%、「どちらかといえば当てはまる」が35.1%と回答している。理科についても本校6年生は好印象を持って学習に取り組んでいることが分かる。

また「理科の授業では、観察や実験をよく行っていますか」という質問に、「当てはまる」86.5%、「どちらかといえば当てはまる」10.8%でほとんどの児童が、本校の理科教育で「観察・実験」を重視していることを実感していることが分かった。ただ、今後は体験活動を知識体系にしっかりと落とし込む努力が必要であると考えます。

学習についての総括

質問事項		選択肢					
		当てはまる (している)	どちらかとい えば当てはま る	どちらかとい えば当てはま らない	当てはまらな い		
分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	本校	27.0	35.1	29.7	8.1		
	全国	32.7	49.1	15.3	2.8		
		3時間以上	2時間以上	1時間以上	30分以上	30分未満	全くしない
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）	本校	24.3	24.3	32.4	13.5	5.4	0.0
	全国	12.4	12.9	29.0	27.3	12.8	5.6
		4時間以上	3時間以上	2時間以上	1時間以上	1時間未満	全くしない
土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）	本校	16.2	13.5	18.9	35.1	10.8	5.4
	全国	7.7	4.5	9.8	25.6	35.0	17.3
		2時間以上	1時間以上	30分以上	10分以上	10分未満	全くしない
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）	本校	16.2	24.3	27.0	13.5	5.4	13.5
	全国	6.4	8.9	16.0	22.2	17.4	29.0
		10冊以内	25冊以内	100冊以内	200冊以内	500冊以内	501冊以上
あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか（雑誌、新聞、教科書は除く）	本校	0.0	10.8	35.1	24.3	18.9	10.8
	全国	14.9	21.6	32.2	16.5	10.3	4.4
		当てはまる (している)	どちらかとい えば当てはま る	どちらかとい えば当てはま らない	当てはまらな い		
読書は好きですか	本校	54.1	21.6	18.9	5.4		
	全国	36.6	33.2	18.5	11.6		

「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」という質問に対して「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」の合計が本校児童は37.8%（全国18.1%）存在する。ここから、本校児童のおよそ4割が教員から指示された学習課題や宿題に追われる受動的な学習姿勢になっていることが窺える。残された小学校生活で、児童たちが主体的に学びと向き合わない限り、学習成績の向上は望めず、児童の主体的学びを引き出せるように覚悟を持って指導に当たる所存である。

学習時間について、平日2時間以上勉強している児童は、全国が25.3%（昨年度23.9%）に対して本校は48.6%（昨年度40.0%・一昨年67.9%）、また休日などに2時間以上勉強している児童は全国が12.2%（昨年度22.0%）に対して本校は29.7%（昨年度40.0%・一昨年度64.3%）と全国と比較すれば学習時間を確保している児童が多いが、一昨年度の本校6年生と比較すると学習にける時間がかなり少ないことがわかる。本校6年生にとって、今後家庭学習の時間を如何に確保するかが課題であることも明確になった。

次に読書に関してであるが、「1日にどれくらい読書をしますか」という質問に本校児童は30分以上読書しているのは67.5%（全国31.3%）で、「読書は好きですか」という質問について「当てはまる」54.1%、「どちらかと言えば当てはまる」21.6%と回答している。これは低学年の頃から授業として読書の時間を設け、図書室などを利用する機会を多くとっている成果が現れたものと考えられる。

また、全国的に自宅にある本の冊数が多いほど、成績が良くなる傾向が出ているが、本校児童は家庭においても多くの書物に囲まれていることが分かる。

【児童質問紙】

生活習慣及び学校生活

質問事項		選択肢			
		当てはまる (している)	どちらかとい えば当て はまる	どちらかとい えば当て はまらない	当てはまら ない
朝食を毎日食べていますか	本校	73.0	21.6	5.4	0.0
	全国	83.3	10.4	4.8	1.6
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	本校	54.1	29.7	8.1	8.1
	全国	38.8	43.0	15.1	3.0
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	本校	64.9	29.7	2.7	2.7
	全国	55.7	35.3	7.6	1.4
困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	本校	37.8	32.4	18.9	10.8
	全国	33.1	37.5	20.6	8.8
学校に行くのは楽しいと思いますか	本校	73.0	10.8	13.5	2.7
	全国	50.0	36.5	9.1	4.3
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	本校	27.0	48.6	13.5	10.8
	全国	32.7	45.5	17.1	4.7
友達関係に満足していますか	本校	54.1	40.5	5.4	0.0
	全国	64.2	27.5	6.3	2.0

以上の表からほとんどの本校児童は朝食を毎日食べており、就寝時刻や起床時刻もほぼ一定であることが分かる。この結果は各ご家庭のご協力の賜物であると感謝している。

「早寝・早起き・朝ご飯」は児童が健全に学校生活を送る基盤となる。また児童の健康維持のためにも大切な事柄である。特に、これまでの学力学習調査の結果からも、「朝食をきちんととっている児童の方が学力が高い」ということは明らかになっている。児童の学習成果も基本的な生活習慣がしっかりと定着してこそという証左である。

学校生活については「学校に行くのは楽しいと思いますか」という質問に「当てはまる（「どちらかといえば当てはまる」を含む）」が83.8%で昨年の80.0%より高かった。大方の児童は充実した学校生活を送っているが、16.2%が「楽しくない（「どちらかといえば当てはまらない」を含む）」と回答していることや、「困りごとや不安がある時に、先生や学校の大人にいつでも相談できますか」という質問に対しても29.7%の児童が「当てはまらない（「どちらかといえば当てはまらない」を含む）」と回答していることを踏まえ、学校生活に充実感を持っていない児童や悩みごとを一人で抱え込んでいる児童がいることを前提に、丁寧に児童に寄り添いながら学級経営をしていく必要を感じている。

「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」は、75.6%が「楽しい」と考えており、「友達関係に満足していますか」は、94.6%が「満足している」ということから、児童たちはそれぞれ異なった価値観を有しながらも、互いの考えを尊重し合いながら友人関係を構築できていることが分かる。「相互礼拝・相互扶助」の精神に基づき、多様性を大切にして、違いを乗り越えつつ協働できる学年に成長してくれることを期待している。

規範意識

質問事項		選択肢			
		当てはまる (している)	どちらかとい えば当て はまる	どちらかとい えば当て はまらない	当てはまら ない
人が困っているときは、進んで助けていますか	本校	48.6	37.8	10.8	2.7
	全国	49.2	44.5	5.4	0.9
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	本校	75.7	18.9	5.4	0.0
	全国	81.4	15.8	2.1	0.7
人の役に立つ人間になりたいと思いますか	本校	73.0	27.0	0.0	0.0
	全国	73.7	22.7	2.6	1.0

以上の表から、本校児童は、規範意識もしっかり身についていることが分かる。困っている人を進んで助けようという思いや、「いじめ」を決して許さないという意識、人の役に立つ立派な人間になりたいという願いを、ほとんどの児童がしっかりと持っている。

本校教育の根幹をなす宗教的情操教育が結実した証であると心から嬉しく思っている。

今後も積極的にかつ主体的に社会貢献に取り組む心優しい人物を育みたいと考えている。

自己有用感

質問事項		選択肢			
		当てはまる (している)	どちらかとい えば当て はまる	どちらかとい えば当て はまらない	当てはまら ない
自分には、よいところがあると思いますか	本校	64.9	29.7	2.7	2.7
	全国	47.4	39.6	9.1	3.9
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	本校	83.8	5.4	5.4	5.4
	全国	55.3	36.9	5.8	1.9
将来の夢や目標を持っていますか	本校	70.3	13.5	10.8	5.4
	全国	60.7	22.4	10.3	6.6
普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	本校	54.1	32.4	10.8	2.7
	全国	54.5	38.4	6.2	0.8

本校児童のほとんどが「自分にはよいところがある」、「将来の夢や目標を持っている」、「普段の生活の中で幸せを感じることがある」と考えている。さらに、「先生から認めてもらっている」と捉えている児童も多い。この結果から、自己有用感を持つ児童が多いことが分かる。一方で「自分に良いところがない」「将来の夢がない」と感じている児童も存在する。これらの児童に対しては、丁寧に見守りつつ、自分の存在意義を見いだせるような支援をしたい。

失敗したときこそ大きな成長のチャンスである。児童たちが失敗を恐れず、何事にも果敢に挑戦し、小さな失敗をたくさん積み重ねて大きな成果へとつないでくれることを期待する。

将来が不透明で世の中がますます多様化していく中、本校は、社会に貢献できるリーダー育成のため、児童各人の夢を大切に育みながら一人ひとりと丁寧に向き合える学校でありたいと考えている。